

第3回古沢小学校のあり方協議会 議事概要

開催日：令和6年8月22日（木）

開催時間：19時00分～20時00分

開催場所：古沢地区センター

出席者：長谷川会長、斉藤副会長、荒木（兼）委員、五十里委員、
高林（聡）委員、高林（正）委員、市川委員、荒木（祐）委員、
杉田委員、石田委員、今井委員、松井委員

※池多小学校のあり方協議会委員10名（合同開催による）

事務局：教育委員会事務局次長 高橋 洋
学校再編推進課長 山崎 悟
学校再編推進課長代理 高岡 太郎
学校再編推進課計画係主査 春田 圭介
学校再編推進課計画係主事 大関 光貴

《開会》

【司会】 第3回古沢小学校のあり方協議会を開催する。なお、本日は古沢小学校のあり方協議会と池多小学校のあり方協議会の合同開催となる。

また、事前の案内のとおり、本日は学校の統合について地域での議論が先行している浜黒崎地区自治振興会長の渡辺様をお招きし、講演いただく。

《講演》

【学校再編推進課長】 まず初めに、事務局より本日の講師の紹介とともに、浜黒崎地区の学校再編の状況について簡単に説明させていただく。

（講師の紹介・浜黒崎小学校の学校再編の状況について説明）

それでは、渡辺様よりご講演いただく。

（浜黒崎校下自治振興会渡辺会長 講演）

- 【司会】 ありがとうございます。渡辺様へ質問等はあるか。
- 【長谷川会長】 統合にあたって、大広田小学校の校舎の改修等は不要か。
- 【講師】 大広田小学校も児童数が減っており、教室は十分にあると聞いている。
- 【委員】 大広田小学校まで1キロ以内の浜黒崎小学校区の子どもたちもバス通学とするのか。
- 【講師】 場所によっては浜黒崎小学校に行くよりも大広田小学校の方が近い子どももいる。そのため、そういった子どもたちはどうするかという話になったが、地区の方からの希望もあり、バス通学できるよう調整している。
- 【池多地区委員】 自治振興会長である渡辺様のリーダーシップで協議会を進めてこられ、富山市との協議等も先頭に立って話をされてきたと思うが、ここまでスムーズに協議を進められたのは自治振興会長である渡辺様の力が大きかったのか、それともあり方協議会の中で中核となる方が一緒に動いてくれたからか。
- 【講師】 協議会の委員には各団体長などになってもらったが、各団体の会合等で、統合したほうがよいのではないかと話しをしてくれていたからだと思う。また、委員には、「言いたいことがあれば、会長である私に言うよう伝えてほしい。」と負担にならないよう配慮した。
- 【池多地区委員】 あり方協議会のメンバーは、色々な団体の若い人を集めたとのことだったが、例えばどういった団体の方を集めたのか。
- 【講師】 若い人を集めたというよりは、偶然、浜黒崎地区は、若い方が活発で40代、50代が中心に地域を動かしている。児童クラブや有為会という教育と児童クラブの間のような特殊な会もある。そういった組織が若い方を中心に盛んに活動しており、そのトップを集めた。また、校下の中心的な影響力のある人物も引き込んだ。
- 【池多地区委員】 受け手側の大広田校区とはどのように交渉したのか。あまり問題なく決まったということか。

- 【講師】 大広田は当初からウエルカムという姿勢だった。
- 【池多地区委員】 今は統合の話を池多と古沢から、老田地区に持ちかけたときに、どのように回答されるか分からない状態である。
- 【講師】 浜黒崎では、去年の段階から大広田の自治振興会長と話をしながら、打診をしていた。
- 【委員】 学童保育は大広田でやるのか。
- 【講師】 学童保育は、令和8年4月に統合するが、学童保育は浜黒崎小学校の一角で継続することとした。
- 【委員】 スクールバスのバス停の話があったが、現在はどこにバス停を置くかや、このエリアはどこに集まるかといった調整をしているということか。
- 【講師】 そのとおりである。バス停を分散すると、例えば点呼の際に、乗っているはずの子が乗っていないなどの問題が起きる可能性があり、1箇所だけにするという考え方もある。ただ、浜黒崎小学校区では、地域を4か所に割って、4か所のバス停を造ってほしいという意向を出しており、そのバスルートについても協議をしている。
- 【池多地区会長】 委員のモチベーションを維持するためにしたことはあるか。
- 【講師】 委員の中には、「この大問題を私が町内に帰って、色々なことを言われたら、私はどう答えればいい」と心配する委員もいた。それはそのとおりだと思う。「渡辺に全部聞いてほしい、そう言ってくれ」ということで、モチベーションを保つようにした。
- 【委員】 このあり方協議会の役員のメンバーは、毎年変わっていくのか。
- 【講師】 統合することで決定したため、一旦このあり方協議会は解散している。ただ、このあり方協議会というのを地域活性化協議会という別組織として名前を変えて、この地域をどう活性化していくかという会にした。メンバーは変わらない。
- 【池多地区委員】 古沢や池多の児童数からすると、よくこのタイミングで決断

されたなというのが第一印象としてある。保護者も自治振興会も子どもの教育環境を第一に考えていると思う。あとは、地域をどうしていくかという点で、地域活性化協議会というのは、大変参考になった。

【講師】 各地域の方からよく決断されたとはよく言われる。やはり子どもたちのことを考えれば、このままでは良くないとは思っている、地域から学校がなくなるというのは、やはりさみしいという思いもあることは理解できる。

【長谷川会長】 この地区は6つの小学校が呉羽中学校で1つになることから、小学校もそこに集まればいいのではないかという話も初めは出ていた。ただ、呉羽小学校だけでは、大規模校になってしまうことなどから、古沢・池多・老田の3校区で検討している。ただし、3つの学校を統合しても、10年ほど後には、また統合が必要になる可能性がある。

【講師】 大広田でもそうだと思う。

【長谷川会長】 であればこそ、よく統合の判断をされたなと感じた。

【講師】 子どもはやはり大きいところで育てたほうが絶対にいいと最初から思っていたため、統合の方向へ進んだが、地域の皆も大反対とまでは思っていなかったのではないかな。

【長谷川会長】 今、この地域は複式学級がずっと何年も続いており、何とかしないとイケない状況になっている。ただ、ほとんどの人はそういう現状をやっと知ったところ。そういう情報はこれまで全く知らなかった。そういった情報が入ってきたのは3年ほど前で、ちょうど去年、小学校設立150周年記念の事業があったことから、それが終わってから話をしようということになった。

【講師】 浜黒崎小学校も2年前に150周年事業をしたばかりだが、統合することはもう決めたことだから、これに向けて話をした。

【池多地区委員】 子どもの教育環境をまず第一に考えて、そこで概ね方向性が

決まったら、次は地域活性化協議会で地域のことを考えていくという２段階の考え方は今まであり方協議会では出ていなかった。そういう選択もあるということが今回共有できたと思うので、非常に有意義だった。

【講師】 学校と地域の衰退は、絶対切り離して考えるべきで、あくまで子ども最優先で考えていくのが一番だと思う。

【司会】 それでは、時間となったため、講演会を終了する。

(講師退出)

《意見交換・質疑応答》

【司会】 池多地区と古沢地区での意見交換について、講演の中で様々な意見や質問が出ていたが、その他に質問等はあるか。

【委員】 今後の進め方がよくわからない。ここから各地区で単独で動いていくのか。

【司会】 今回は、それぞれの校区で本日の振り返りなどを行ない、その後、１１月１４日に池多地区・古沢地区の合同で老田小学校を見学することになっている。その後は、またそれぞれの校区で議論を進めていくこととなる。

【池多地区委員】 浜黒崎地区の話の聞くと、物すごいスピード感を持って進んでいたように思うが、もっとペースを早めることはできるか。

【司会】 浜黒崎地区でも約１年間かけて自分たちの校区で話し合いをして結論を出されており、それに比べて遅いということはない。結論を出すタイミングは、それぞれの協議会で議論がどこまで進むかによって変わってくる。

《閉会》

【司会】 それでは、次回の協議会については調整の上、ご案内する。これで、第３回古沢小学校のあり方協議会を終了する。

—— 了 ——